

在宅療養にお困りの方・訪問診療を考えている方のお手伝いをします

○在宅療養支援窓口の相談事例紹介

<妻からの相談>



Aさんの妻

高齢の A さんは、数年前に認知症の診断を受け、定期的な通院とデイサービスに通いながら落ち着いた生活を送っていました。ある日、夜中にトイレに起きた時に転倒し骨折をしてしまい、入院が必要になりました。環境の変化からか認知症の症状が進行してしまい、食事を食べなくなっていました。医師より胃ろうを作るか、点滴を行うか考えるように言われた妻はどうしていいかわからず混乱してしまいました。

<在宅療養支援窓口スタッフの支援内容>

A さんの妻は、入院により急激に変わった夫の状態の変化に混乱していました。まず、認知症の症状やこれからでてくる可能性がある症状について説明し、認知症について理解して頂きました。

医師から提案された、胃ろうを作るか、点滴を行うかは、今までの生活の中で夫の思いを聞いたことはないか確認しました。妻は、夫が元気だった頃に、「最期まで口から食べたい。ビールを飲みたい」と言っていたことを思い出しました。本人の意思を大切に、子どもさんやかかりつけ医とも話し合うことをすすめました。

人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)

もしものときに備えて、

「あなたの大切にしていることや望み」「どのような医療や介護を望んでいるか」など、

自分自身で考え、あなたの信頼する人たちと話し合うことを

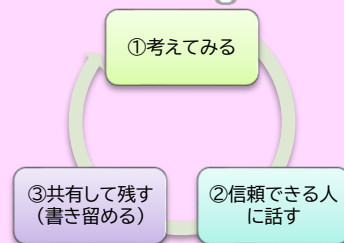
人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)といいます。



考えは変わる！
この作業を何度も繰り返して
みましょう。



- ・自分で考え、大切な人たちと話し合い、共有することが重要
- ・元気なうちから始めましょう
- ・決めることが大事ではなく、話し合う過程が大事です



命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。また、あなたに意識がない場合は、あなたの大切な人が判断を求められる場合があります。あなたの思いを大切な人たちと共有しておくことで、あなたの意思を尊重した選択に繋がり、あなたの思いが大切な人の心の支えになります。

